

令和4年度 佐賀県農業大学校 評価表(実績)

資料 3

教育目標	〇 高い技術力や経営力を備えた意欲的な農業者等の育成 〇 農業・農村の発展に貢献できるリーダー等の育成	〇達成度 A:十分達成できている(100%以上) B:概ね達成できている(100%未満~80%以上) C:やや不十分である(80%未満~60%以上) D:不十分である(60%未満)
重点目標	1.優秀な入学者の確保 2.高い技術力や経営力の習得 3.全ての学生の進路決定 4.農業者研修の充実	

目標	評価項目	令和4年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
1 優秀な入学者の確保	〇受験者数	・受験者30名以上	・農大の情報の発信 ・各機関・団体への周知 ・農業系高校等との連携強化	・受験者数は、34名であった。 推薦15名、一般(一次)12名、一般(二次)7名 ・佐賀県農業大学校のYoutubeチャンネルと、県公式Youtubeチャンネル@SagaKouhouMovieに、専攻実習、収穫祭、寮祭など13本の動画を掲載して、情報発信した。 ・広報誌「緑旗」を年2回発行し、農大の行事や学生を紹介した。 ・NOSAI佐賀機関誌に加え、日本農業新聞に在校生の紹介記事が掲載された。 ・JAグループの協力を得て、県内JAの支所単位まで、学校案内(学生募集やオープンキャンパスを掲載)を配布した。 ・市町、農業委員会、振興センターの広報誌に学生募集の記事掲載を依頼した。 ・県内の高校47校に、学校案内パンフ、ポスター、募集要項を配布した(コロナのため全校訪問は取りやめた)。 ・6月15日に高校向けの募集要項説明会を開催した(9校参加)。 ・5~7月に延べ8校の進路ガイダンスに参加した。 ・PR用クリアファイルを進路ガイダンスやオープンキャンパスで配布した。 ・同窓会会員に学生募集のPRを依頼した。 ・6月15日に高校向けの募集要項説明会を開催した(農業系高校は全5校参加)。 ・6月23日に農業系高校長との懇談会を開催した。 ・農業系高校全5校の進路ガイダンスに参加した。 ・10月21日に未来さが農業塾生(高校生37名)を農業大学校に招き、施設紹介をした。 ・2月3日に農業系高校の出張講義を行った。	A	・本科受験者32名中、県内の農業系高校出身者は12名であり、ここ3年間で見ると減少傾向にあるが、農業及び農業関連の進路を志す学生を多く確保できるよう、農業高校との連携及び広報活動に力を入れる。 ・県内の高校47校を全て訪問し、学校案内、募集要項説明を行う。	

目標	評価項目	令和4年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
優秀な入学者の確保	○オープンキャンパスの参加数	・オープンキャンパス参加者 40 名以上	<ul style="list-style-type: none"> ・農業系高校等との連携強化 ・農大の情報の提供 ・各機関・団体への周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス参加者数は35名であった。 ・6月15日に高校向けの募集要項説明会を開催した(農業系高校は全5校参加)(再掲)。 ・6月23日に農業系高校長との懇談会を開催した(再掲)。 ・7月3日(日)、7月27日(水)、8月19日(金)の3回、オープンキャンパスを開催し、午前中は学校紹介、専攻毎の実習体験、午後は在校生との交流を実施した。 ・7月3日(日)のオープンキャンパスの様子を動画にまとめて、農業大学のYouTubeチャンネルに掲載し、オープンキャンパスの情報発信した。 ・JAグループの協力を得て、県内JAの支所単位まで、学校案内(学生募集やオープンキャンパスを掲載)を配布した(再掲)。 ・市町、農業委員会、農業振興センターの広報誌に学生募集の記事掲載を依頼した(再掲)。 ・県広報誌7月号にオープンキャンパス募集記事を掲載した。 ・FM佐賀、NBCラジオでオープンキャンパスの告知をした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の高校47校を全て訪問し、オープンキャンパスへの参加を呼び掛ける。 ・生徒及び家族が参加しやすいよう、平日ではなく土日に絞って開催する。 	

目標	評価項目	令和4年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	<p>【土地利用型】</p> <p>○栽培管理技術の習得</p> <p>・播種から収穫・乾燥調製までの栽培管理技術の習得</p> <p>・スマート水田農業機械の操作習得</p> <p>○農業機械の基本操作と圃場の維持管理の習得</p>	<p>・スマート水田農業機械が活用できる学生の割合 100%</p> <p>・一連の作業が機械で出来る到達学生の割合100%</p>	<p>・観察記録と栽培管理日誌の記帳確認</p> <p>・学生による栽培計画書の作成指導</p> <p>・スマート水田農業機械を活用した水田作業の指導</p> <p>・スマート水田農業に関する知識の習得</p> <p>・農業機械の操作指導</p> <p>・作物栽培と連動した機械作業の習得指導</p> <p>・機械作業ポイントの作成と他学生への説明会の開催</p>	<p>・各自のプロジェクト課題を進める中で、栽培計画に基づいて米・麦・大豆の播種から収穫、乾燥調製まで一連の作業を实践させ、再認識させた。また収量や品質・経費なども作業日誌に記録させ、コスト意識の理解度を向上させることができた。</p> <p>・スマート農業機械については、それぞれの機械の特性を理解させ、圃場における操作や運転を体験させた。すべての学生がGPSトラクター、GPS田植機、GPS収量コンバインを操作する事ができた。</p> <p>・農業用ドローンも全ての学生に操作体験させる事が出来、また新規に4人の学生がドローンの運転免許を取得させた。</p> <p>・一連の機械基本作業を全ての学生が安全に操作できるようになった。</p> <p>・大型特殊(農耕車)免許および、けん引(農耕車)フォークリフト免許を全員取得した。</p> <p>・圃場作業に合わせた農業機械の操作を習得させた。</p> <p>・オープンキャンパス時には、学生自らが参加高校生にスマート農業機械の操作や機能を伝えるなど、習得した知識や運転技能について習熟度を向上させることができた。</p>	A	<p>・既存基本農機およびスマート水田農業機械を使った総合的で実践的な実習の充実を図る。</p> <p>・作物のGAPに取組み、圃場管理作業、機械操作、労働環境の改善点を整理していく。</p>	

目標	評価項目	令和4年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	【露地野菜】 ○栽培管理技術の習得	・到達した学生の割合 100%	・観察記録と栽培管理日誌の記帳確認	・実習では毎日の栽培管理と観察記録を日誌に記帳して理解度の向上を図った。 ・プロジェクト品目については栽培計画書と栽培暦を作成させ、管理作業の実践と技術習得を図った。 ・GAPの考え方に基づいて、使用資材等の整理整頓や用途による使い分けを実践・指導した。 ・新規品目として西洋野菜を栽培し、プロジェクト活動に取り組んだ。 ・ドローンによるタマネギ防除を実施し、利用効率を学習させた。 ・農業技術検定に向けた勉強会を4回実施した結果、2級に1名、3級に1名が合格し、専攻学生全員が合格者となった。	A	・実習で身に着けた技術を基に自ら計画を立てて効率的に一連の栽培管理が行えるように指導していきたい。	
	・播種から収穫までの栽培管理技術の習得		・学生による栽培計画書及び栽培暦の作成指導				
	○農業機械の基本操作と維持管理方法の習得	・一連の作業を機械で操作できる学生の割合 100%	・農業機械の操作指導 ・農業機械の作業点検方法の指導	・トラクター、管理機、草刈機等の操作指導を行い、全学生が全ての農機の基本操作ができるようになった。 ・農業機械の点検を実施し、オイル交換等の基本的な管理ができるようになった。	A		
	【施設野菜】 ○IoT機器を活用した栽培管理技術の習得	・IoT機器が活用できる学生の育成 100%	・観察記録と栽培作業日誌の記帳確認 ・IoT機器の活用を前提とした栽培の理論と実際の環境制御技術の指導	・毎朝の観察と作業日誌記録によって、観察に基づいた管理の意識付けを指導し、観察に基づいた管理ができるようになった。 ・環境測定機器の取り扱い方法の指導により機器を活用できるようになった。 ・温湿度と植物の生育の関係を、実際の栽培を通じて指導し、光が重要であると理解させた。 ・週間天気予報を活用した環境設定の指導で先を見越した管理の必要性を理解させた。	A		
	○経営能力の向上	・担当する品目の所得の把握ができる 100%	・作型毎の作付け計画の作成指導と進捗管理 ・経営記帳の指導	・プロジェクト課題設計検討会と中間検討会を実施し、問題点を把握し、効率的・効果的な研究に取り組みさせた。 ・プロジェクトで取り組む野菜品目での収量・品質・経費等の記録指導し、収支を理解させた。	A		
	○GAPの実践を通したよりよい施設園芸の実践	・GAPを実践できる学生の育成 100%	・施設野菜の実習におけるGAPの実践	・GAPの考え方、実施方法を、講義・実習で指導した。 ・使用資材・機材の整理・整頓の実施指導により研修棟内の環境改善につながった。 ・使用資材の使用履歴の記帳指導によりトレーサビリティを理解させた。	A		

目標	評価項目	令和4年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い 技術力 や 経営力 の 習得	【花き】 ○花き栽培に関する基礎知識の習得	・主要花きの育苗から収穫までの一連の栽培技術の基礎的知識を習得到達した学生の割合 100%	・主要栽培品目の、播種、育苗から栽培、収穫まで一連の生態、栽培管理の基礎知識及び栽培技術習得 ・作業日誌の記帳確認 ・新規品目作付けへの取り組み ・環境負荷低減のための取り組み ・農業技術防除センターや農業試験研究センター等からの卒論プロジェクト課題に関する情報提供等の支援	・主要品目の基礎的な生理生態、基礎知識および栽培技術を習得させた。 ・上記品目の播種から栽培、管理、収穫まで一連の作業を解説、実践した。また、試問や作業日誌等での理解度の確認をした。理解度に応じた個人別指導を行った。 ・担当品目の決定と作付け計画、実践を指導した。 ・シンテップウユリの作付けのため知識習得を行った。 ・汚泥堆肥を利用した夏秋ギクの栽培や微生物資材散布による農薬散布回数の低減に取り組んだ。 ・関係機関（農業技術防除センター、農業試験研究センター、農業振興センター）と連携し、卒論は地域課題を設定し、結果は2年生の実家にフィードバックした。	A	・2年生の卒論課題は専門技術員等と連携して花色の遺伝様式の解明に取り組み、実家の経営にフィードバックできたが、地域へのフィードバックが不十分である。1年生の課題の一つは、県下全域での現地課題に取り組む予定。	
	○花きの品質保持及び6次加工に関する技術の習得、流通及び販売知識の習得	・品質保持及び加工技術の習得到達した学生の割合 100%	・収穫後の花きの鮮度保持技術、フラワーアレンジメントなどの加工技術の習得 ・加工品目の市場評価	・収穫後の品質保持技術の知識及び技術を指導した。 ・6次産業化の取り組みとして、加工（染色、フラワーアレンジメント、加工品）等の技術取得した。 ・直売や収穫祭を通して消費動向調査を行った。	A	・加工品については、ドライフラワー、染色、ハーバリウムに取り組んだ。次年度は、プリザーブドフラワー作成にも取り組みたい。	
	【果樹】 ○主要常緑・落葉果樹の栽培技術の習得	・到達した学生の割合 100%	・主要常緑・落葉果樹の生理生態理論について指導 ・果樹の高品質・安定生産技術の指導 ・最新の栽培技術の講義および指導 ・県育成品種にじゅうまる等の新品種栽培技術の指導	・各樹種における生育ステージ毎の理論を講義し、実習終了時に気づき及び感想を整理させることで習熟度を向上させることができた。 ・品目毎に栽培管理計画書を作成指導し、担当品目は生産から販売までの一貫した流れを理解させた。 ・プロジェクト課題等については、果樹試験場と連携し課題解決につなげることができた。 ・温州ミカン「佐賀果試9号」や「佐賀果試35号」の技術習得のため、施設・露地圃場に定植し、栽培技術および生育特性を理解させた。	A	・県育成品種の栽培特性を理解させ、今後役に立てるような技術等を習得させる。	
	○スマート農業に関する知識の習得	・到達した学生の割合 100%	・AI技術を取り入れた栽培管理技術の習得 ・省力栽培技術の習得	・AIによる肥培管理システムおよび温湿度観測装置を利用した栽培管理法を指導し、学生全員がスマホ上から状況を確認できるようにしたことで、こまめにデータを確認する習慣がついた。 ・ロボット草刈り機およびスピードプレイヤーを導入し、効率的な圃場管理作業を習得させた。	A	・AI灌水および温湿度観測装置をさらに活用し、環境条件と樹の生育、果実品質との関係を明らかにしていく。	
	○経営能力の向上	・果樹経営特性を理解到達した学生の割合 100%	・果樹経営特性の理解 ・GAPに取り組む	・担当品目の労働時間、使用資材、収量、販売金額等についての記帳を指導し、売り上げと経費との関係を認識させた。 ・市況や統計資料等と記帳結果と比較して、担当圃場での問題点を整理させた。 ・プロジェクト課題等においては、試験結果を検証し経営改善点を整理させた。 ・GAPに基づき記帳や整理整頓を実践し、必要物品をより早く探し出せるようになった。	A	・GAPについては継続して出来るところから取り組みを増やす。	

目標	評価項目	令和4年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い 技術力 や経営 力の習得	【畜産】 ○繁殖生理の学習と繁殖技術の習得	・到達した学生の割合 100%	・家畜の性周期、発情兆候の理解 ・家畜人工授精技術の習得及び技術の向上	・発情観察記録表へ記入させて発情等を理解させた ・繁殖牛の分娩前観察及び分娩介助方法を学ばせた ・家畜人工授精師資格取得に向け、知識と技術を習得させた。 ・家畜人工授精を実施し、技術を習得させた。 ・スマホアプリを活用した牛の管理方法を理解させた。	A	・スマート畜舎での飼養管理やICT機器を活用した実習を行っていく。	
	○家畜栄養の学習	・到達した学生の割合 100%	・飼料給与技術の習得 ・各畜種(乳牛、種雄牛、豚)の飼料給与技術の習得	・県の飼料給与プログラムに基づく飼料給与を実践させ、習得させた。 ・毎身体測し、発育状況把握させた。 ・子牛セリへの参加し、出荷された子牛の発育状況を比較させ、優良子牛について理解させた。 ・畜産試験場での講義及び実習を31回行い、各畜種の飼料給与技術を習得させた。			
	○家畜ふん尿処理及び利用技術の学習	・到達した学生の割合 100%	・糞尿の堆肥化处理技術の習得 ・発酵舎などを利用した堆肥処理方法の学習 ・堆肥の散布技術の習得	・畜産試験場堆肥舎での実習で関連作業機械を操作した堆肥化处理技術を習得させた。 ・畜産試験場で発酵舎を利用した堆肥処理方法を理解させた。 ・ローダーやマニアスプレッタ等の作業機械を用いた圃場散布作業を実施し、技術を習得させた。	A	・新しくなった堆肥舎で堆肥化处理技術の習得をさせる。	
	○飼料作物栽培の学習	・到達した学生の割合 100%	・一般的な飼料作物生産技術の習得 ・作業機械操作技術の向上	・夏作、冬作の飼料作物を栽培し生育状況を観察させ、知識を習得させた。 ・作業機械を用いた耕起、施肥、播種、収穫、調整に関する実習を行い、操作技術を向上させた。	A	収穫後再生させ複数回収穫作業させることで、操作技術を向上させる。	

目標	評価項目	令和4年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い 技術力 や経営 力の習得	【農産加工】 ○農畜産加工及び商品づくりの基礎知識の習得 ・穀類・野菜・果実・畜肉等の加工技術の習得	・到達した学生の割合100%	(1年生) ・食品衛生及び野菜・果実・穀類等を使った食品加工に関する基礎的な知識・技術習得のための演習の実施 (2年生) ・農産物の食品加工技術及び商品づくりの基礎知識、包装・ラベル作成等を習得するための演習の実施 ・漬物、惣菜、ソース、菓子、製粉・乾燥・レトルト等の加工等演習の実施	(1年生) ・食品衛生法や食品表示に関する基礎知識を習得させた。 ・加工演習では11品目の1次加工を習得させた。 ・シーラー機やオープン等の基本的な機材操作を習得させた。 (2年生) ・急速冷凍、レトルト等の、より高度な2次加工技術の演習を実施し、14品目を製造させた。 ・蒸気回転窯やレトルト殺菌機等の高度な機材の操作を習得させた。 ・穀類・野菜・果実・畜肉等の加工技術を習得させた。 ・農畜産加工及び商品づくりの基礎知識を習得させた。	A	・より安心、安全な商品づくりを目指すため、食品衛生の管理方法の指導強化。	
	○学生発案によるオリジナル商品の開発、定番化	・開発、定番化商品1商品以上	・農産加工研究会(学生の自主組織)への指導 ・直売での販売動向の把握及び分析	・農産加工研究会による試作研究 学生の提案をもとに、農大産の農産物を利用した試作研究を行わせた。 ・学生発案による加工品を商品化に向け技術指導し、直売等において販売させた。 ・商品の製造・販売・製造物品質検査記録を記帳させ販売動向を分析させた。	A	・農大オリジナル商品の開発と定番化を目指す。	
	【資格等の取得向上】 ○カリキュラムの中で必要な資格取得	・必須免許の資格合格率100% (大型特殊免許、けん引免許等) ・選択性の資格の合格率50%以上 (農業技術検定、危険物取扱者、家畜商、フォークリフト、狩猟免許等)	・研修の充実	・必須の免許・資格の取得(合格率100%) ・農耕用大特免許 28名 ・農耕用けん引免許 30名 ・選択性の免許・資格の取得状況(合格率42%) ・農業技術検定3級 2名 ・農業技術検定2級 1名 ・農業簿記検定3級 0名 ・毒劇物取扱者 1名 ・危険物取扱者(乙4) 1名 ・フォークリフト 8名(R5.3に16名受講予定) ・ガス溶接技能講習 10名 ・アーク溶接特別教育 2名 ・小型車両系建機 17名 ・家畜受精卵移植師 1名 ・牛削蹄師 1名 ・毒劇物、危険物は、「農業と化学」の教科の中で講義を行った。 ・過去問題を活用した指導等を実施した。	B	・家畜人工授精師、家畜商については、隔年で講習が開催されており、令和5年度に受講する。 ・引き続き、希望進路に合わせた免許・資格の受験を促進し、免許・資格が取得できるよう指導を行う。 ・特に、毒劇物取扱者、危険物取扱者の合格者はいずれも1名であり難易度が高いが、過去問題などを活用して指導を行う。	

目標	評価項目	令和4年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
3 全ての学生の進路決定	○就農・就職決定率	・就農・就職率 100%	・就農・就職指導の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・就農・就職決定率は、現時点で97%となっている(30名中29名が決定)。 ・進路指導専任職員(会計年度任用職員)を1名配置して、進路指導を行った。 ・ジョブカフェSAGAから講師を招聘し、1年生3回、2年生4回のキャリアプランニングの講義を行った。 ・農大に対して延べ80社から求人があり、ハローワークからの情報とともに随時学生に情報提供した。 ・就職希望者を一般企業を含む合同企業説明会に参加させた。 ・県内の農業法人の会社説明会を開催した(3月実施を含め、10社が参加)。 ・就農準備資金は1年生3名、2年生3名が活用した。 ・5月に2年生、10月に1年生を対象に先進農家派遣研修を行った。また、1月に1年生を対象に流通現場研修を行った。 ・社会人となったR4.3卒業生を呼んで、就職試験対策を行った。 ・1月に2年生を全国農業青年交換大会in福岡に参加させた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、将来目標を早めに設定するよう、早期に就農・就職指導等を実施する。 ・雇用就農を希望する学生には、農大に求人を出している農業法人とのマッチングを考慮して、先進農家派遣研修を行う。 	

目標	評価項目	令和4年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
4 農業者研修の充実	○大型特殊(農耕車)、農耕用けん引の免許取得	<ul style="list-style-type: none"> ・受講待機者の削減 ・免許合格率:95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講待機の状況に併せた研修回数の設定 ・研修の受講辞退者にも対応した受講者の調整 ・操作技術(特に、けん引)の指導方法の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講待機者数を考慮し、昨年度に引き続き、農耕用けん引6回、大型特殊(農耕車)17回を当初計画としていたが、待機者の減少を図るため、運転免許試験場と協議し、大型特殊(農耕車)の研修を3回追加(計20回)して実施した。 ・市町と受講待機者の情報を共有化することで、受講者の選定をスムーズに進めることができた。また、受講決定後キャンセルが発生した場合も、出来るだけ欠員がでないよう調整した。 ・模範操作の動画や機械模型を活用し、受講生の理解を深めるよう努めた。 ・受講生が指導内容を理解しやすいように、無線装置を導入した指導方法の検討し、IT機器を活用した指導環境の整備を進めた。(研修での本格活用は令和5年度からとなる。) ・地域の担い手として重点的な支援が必要な者をより優先して研修を進められるよう、研修の実施要領を一部改正した。(改正内容での研修実施は令和5年度から) ・免許合格率は大特100%(再試験による合格2名) ・同 けん引100% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・IT機器を活用し、受講生が理解しやすい指導方法の実践を図るとともに、遠隔指導を有効に活用するなどして、職員の指導環境の改善を進める。 ・市町と連携を図り、要領改正後(担い手を優先)の研修を適切に実施する。 	
	【さが農業経営塾】 ○受講者数	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者数(定員の確保)10名 ・受講者の満足度80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業士、青年農業士、女性農業者、農業青年クラブ員、農業法人協会会員、過去の受講者、市町、JA青年部等への周知 ・オリエンテーション(講座前に実施) ・受講者へのアンケート調査の実施 ・運営委託業者と調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・講座の開講前に特別公開セミナーをオンラインで開催し、経営塾のPRと受講意欲の醸成を図った。 ・JAや各関係機関へパンフレットを配布し、経営塾開催の周知を図った。 ・新聞、HP等を活用した情報提供も行った結果、6名の受講者を確保することができた。 ・併せて、サポート人材として、6名の普及指導員にも講座に参加してもらっている。 ・アンケート調査を毎回実施し受講者の満足度は”大変良かった”が大半を占めていた。 ・アンケート調査結果をもとに研修内容の調整を行った。 	<p>C</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講座受講の呼びかけについて、講座内容検討の段階から始め、周知期間を長くすることにより、受講者を多く集める。 	

目標	評価項目	令和4年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
4 農業者研修の充実	【農産加工支援研修】 ○受講者数	・受講者数の確保 2講座 15名	・農業青年クラブ員及び女性組織等への周知	農業振興センター、農業経営課、さが農村ビジネスサポートセンター等と連携した募集の周知。 ・農大HP等を活用した情報提供。 ・基礎研修 7名 ・応用研修 3名	C	・募集期間に関しては約2ヶ月と長くしているため、より多くの農業者に目に留まるように各地域振興センターの会議の場やプレスリリース等を活用して周知する。	
		・受講生の理解度 80%以上	・6次産業化の基礎的な知識・技術に関する講義・演習の実施	・食品衛生、加工技術、歩留まり計算、原価計算、包装技術、ラベル作成等、農産加工の基礎的な知識・技術習得のための講義及び演習を実施した。 ・HACCPの制度化に向けた一般衛生管理等の知識・技術習得のための講義、演習を行う食品衛生強化研修を実施した。 ・毎回、受講後のアンケート調査を実施し、進捗状況を把握、理解度をチェックした。その結果、講座内容を概ね理解した受講生は80%以上と目標をクリアできた。	A	・アンケートを基にやや苦手意識が見られた原価計算についてなど、より詳しく行う。	
		・受講者1人(組織) 商品化を目指した1品目以上の試作	・商品づくりと試作研究への指導 ・新商品開発能力を高める試作研究への指導	・商品化につながる試作品づくり及び新製品の開発能力向上のための知識・技術の指導を行った。 ・個別計画に沿って、試作研究演習を個別で実施、また、試作研究指導を実施し、技術習得ができた。 ・受講者全員、1品目以上の試作品を製造した。 ・関係機関と連携し、商品化に向けた新商品開発を行うための評価及び検討会を実施した。また、今後の商品開発の参考になると考え、評価検討結果を受講生にフィードバックした。 ・農産加工を取り入れ実践している先進事例について、視察研修を実施した。 ・HACCPの制度化に向けた一般衛生管理等の知識・技術習得のための講義、演習を行う食品衛生強化研修を実施した。	A		

目標	評価項目	令和4年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
4 農業者研修の充実	○農業者組織(農業青年クラブ)活動の活性化	・研修に対する満足度80%以上	・農業青年クラブ員を対象とした各種研修等の実施 ・コロナ禍に適応した研修の開催方法の検討 ・参加後の聞き取り調査等の実施	・各種研修等の開催 ・コロナ禍による影響を鑑みて役員理事会、三役会、各部会等はZoomを活用し、オンラインと現地でのハイブリッド開催を取り入れて実施した(毎月1回程度) ・さが農業力向上セミナーを開催した(7月、コロナ中止)(12月、参加者30名) ・冬季のつどいは、3年ぶりにリアル開催として実施。 ・九州沖縄地区、全国活動へ参画した。 ・代表者会議を開催した(5月、2名、11月、1名) ・九州沖縄地区農業青年会議(全国農業青年交換大会を兼ねる)を開催した(1月、佐賀県より40名) ・九州農政局長と語る会への出席(11月、3名) ・3月全国大会で佐賀県代表が発表する。 ・研修会に参加したクラブ員の8割以上が満足だったと回答した。	A	・新規会員の加入呼びかけ・促進を行い、県内全体のクラブ活動の活性化を図る。 ・引き続きコロナ禍に対応した開催方法によって、活動が停滞することがないように研修会のあり方を検討していく。対面での活動で得られることの大きさをみなが再認識した。	
	○農業者組織(青年農業士)活動の活性化	・研修に対する満足度 やや満足以上の割合80%以上	・青年農業士を対象に、新型コロナの発生に対応した各種研修の開催 ・参加者へのアンケート調査実施	・各種研修会 ・農業士との合同研修の開催(7月、40名) ・先進地事例調査の実施(1月、6名参加) ・県外研修への派遣(1月に2名派遣予定であったが、コロナにより中止) ・研修後に参加者へのアンケート調査を実施 先進地視察では今後の取り組みの参考となり、満足との回答だったが、参加者が少なかった。	B	・集合研修、また視察研修問わず参加しやすい研修会の開催。	
	○農業者組織(農業士)活動の活性化	・研修に対する満足度 やや満足以上の割合80%以上	・農業士を対象とした各種会議・研修会の開催 ・さが農業女子サミット実行委員会の開催 ・参加後の聞き取り調査等の実施	コロナ禍への対応を検討し、以下の内容を行った。 ・各種会議の開催 ・役員会議 4回 ・佐賀県内JA代表者との意見交換会(11月) ・県農政関係課長との意見交換会(2月) ・各種研修会の開催 ・青年農業士との合同研修会(7月) ・九州・沖縄農業士研修会(7月 大分県) ・さが農業女子サミット(女性全体研修会)(1月) ・指導農業士全国研究会(1月) ・各部会活動の実施(7部会) ・研修後、参加者への聞き取りを実施したところ、満足との回答を得た。	A	・コロナ対策等で、活動が消極化していたものの再活性化。	